報道関係各位

2026年11月18日
NPO法人ECCOM八重山

獣医師・土城勝彦氏がNPO法人ECCOM八重山の理事に就任
― 野生動物の救護現場で培った知見を、自然保全と公園運営へ ―

NPO法人ECCOM八重山（沖縄県石垣市、代表理事：内山潔、以下ECCOM八重山）は、石垣島で20年以上にわたり野生動物の診療・救護に携わってきた獣医師・土城勝彦氏を理事に迎えました。土城氏が現場で培った知見を公園での展示や自然体験に活かし、生きものの生態や島の現状への理解を深める活動を進めます。交通事故など、野生動物に救護が必要となる原因に目を向け、日々の行動を考える機会を来園者に届けていきます。





背景｜石垣島の豊かな自然を、未来につなぐために

石垣島には亜熱帯の森林や水辺、草地が広がっています。カンムリワシをはじめとする希少な野生動物も、人の生活圏のすぐそばで暮らしています。その一方で、土地利用の変化による生息環境への影響や交通事故など、人の暮らしに関わる課題も生じています。カンムリワシの交通事故は2025年に島内で5件確認され、そのうち4羽が死亡しました。交通事故による死亡は、2022年からの4年間で18羽にのぼります※。
※出典：カンムリワシリサーチ「2025年カンムリワシ運転注意マップ」

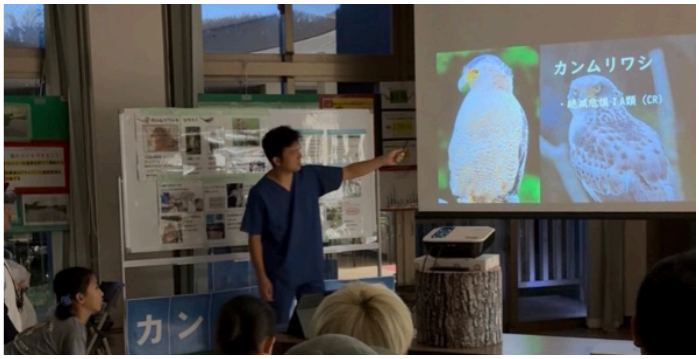
土城氏の理事就任｜救護の経験と、自然を学ぶ場をつなぐ

土城氏は、国の特別天然記念物であるカンムリワシの救護に、年間約10羽、累計100羽以上携わってきました。ECCOM八重山は、獣医師としての専門知識と、長年にわたり野生動物と向き合ってきた経験を、自然への理解を深める活動につなげるため、土城氏を理事に迎えました。
バンナ公園は、カンムリワシをはじめとする多様な生きものが暮らす環境の中で、地域住民や観光客が自然に触れ、学べる場です。土城氏の知見を公園での展示や自然体験に活かし、生きものの魅力と、その暮らしを取り巻く課題をともに伝え、日々の行動を考える機会を届けていきます。

土城勝彦氏 コメント

石垣島に移住して21年、移住当初より、八重山地域の野生動物の救護業務にも携わっております。石垣島は、美しい海と多様な自然に溢れた観光地です。しかし、ここ20年ほどを振り返るだけでも、島の中の光景は大きく変化し、人の暮らしの利便性が高まる一方で、野生動物たちの目線から見ると、明らかに住みにくい島になってきています。カンムリワシの交通事故や衰弱救護に関しても、年々重い事例が増えてきております。
このような危機的な状況を踏まえ、『傷病動物の救護』の立場から、積極的に救護原因に介入し、ヒトの手でできることを考え実行していく、島全体の保全を進める立場に、自分自身を移行しているところです。カンムリワシの主要生息地でもあるバンナ公園から、島の生物たちの現状をお伝えすることは、自らが目指していることと、正に一致します。獣医師という専門家の立場から、島全体の良いベンチマークとなる自然公園づくりに、協力させていただきたいと思います。今後はバンナ公園内でお話会などを開催し、カンムリワシの、とても不器用で不思議な生態を皆様に知っていただき、愛ある保全にご参加いただきたいと願っております。（獣医師　土城　勝彦）　※コメントは一部を抜粋・編集しています。全文は別紙をご覧ください。





2025年琉球いきものづくし講演会「ワシではなしワシ？カンムリワシの不思議な生態」の様子

取り組み｜バンナ公園を拠点に、自然保全を身近なものへ

土城氏の専門性を活かし、来園者が野生動物を知るだけでなく、身近な関わり方を考えられる展示やプログラムづくりを進めます。

1. 専門家の知見を活かした展示・自然体験の充実

土城氏の救護経験や専門知識を活かしたミニトークや自然観察イベントの定期開催、特別展示を予定しています。カンムリワシをはじめとする野生動物の生態や救護事例、観察・撮影時の距離の取り方、生息地での運転時の注意などを伝えます。自然を楽しみながら、そこに暮らす生きものへの理解を深め、適切な関わり方を学べる機会づくりに取り組みます。来年2月のカンムリワシ週間にあわせた企画も開催予定です。

2. 地域との連携による野生動物の保全

行政機関や研究機関、地域の団体などと、救護現場や公園で把握した課題を共有し、野生動物の事故予防や生息環境の保全につながる協力のあり方を検討していきます。

各企画の詳細や開催日程は、決まり次第、バンナ公園の公式サイトやSNSでお知らせします。

NPO法人ECCOM八重山

NPO法人ECCOM八重山は、「生きている自然の入り口になる」をパーパスに掲げ、2025年4月より県営バンナ公園の管理運営を担っている。団体名の「C」の一つにはConservation（保全）の意味が込められており、自然環境の保全と活用の両立を目指している。ビジターセンターを拠点とした自然観察プログラムのほか、「バンナ商店」や「いきものパーラー」などを通じて、自然や生きものに触れる新たな接点づくりを展開。来園者、研究者、地域住民、事業者など多様な人々と自然をつなぐとともに、研究者による調査・観察で得られた知見を来園者へ伝える取り組みも進めている。
代表理事： 内山 潔　　所在地： 沖縄県石垣市大浜333-1-406

多様な専門性を持つ理事メンバー

自然環境の保全、公園運営、自然体験、いきものをテーマとした商品開発や情報発信など、異なる分野の専門性を持つメンバーが運営に関わる。それぞれの知見や経験を持ち寄り、多様な視点から、人と自然をつなぐ公園づくりに取り組んでいる。

代表理事　内山 潔｜NPO法人ECCOM 理事
副理事　栗田 こずえ｜いきものクッキー専門店 Kurimaro collection 代表
理事　川根 有機｜公園管理運営士／元三重県民の森所長
堀井 大輝｜西表島ナイトツアー専門店 Asante 代表／写真家
山内 早紀｜いきものづくし 代表
土城 勝彦｜獣医師／野生動物救護

県営バンナ公園

石垣島の中心部、標高230mのバンナ岳を中心に広がる日本最南端の森林公園。約279haの園内には亜熱帯の森林や湿地、水辺など多様な自然環境が広がり、600種以上の植物、1,500種以上の昆虫類、100種以上の鳥類・哺乳類・爬虫類・両生類が生息すると考えられている。八重山地域の豊かな生物多様性を身近に感じられる、自然観察や環境学習の拠点となっている。

【お問い合わせ】

バンナ公園　広報PR 坂島（さかしま）
TEL：080-1760-8832　Email：j8@eccom.jp
HP　：https://banna.jp/　公式Instagram / X：@banna_park

獣医師・土城勝彦氏
理事就任にあたってのコメント全文

初めまして。この度新しくNPO法人ECCOM八重山の理事に就任しました、獣医師の土城と申します。普段は石垣島島内で、ペットの診療を行っております。石垣島に移住して21年になりますが、移住当初より、八重山地域の野生動物の救護業務にも携わっております。

皆さんご存じの通り、石垣島は国内でも、いや世界でも有数の、美しい海と多様な自然に溢れた観光地です。しかしながら一方で、ここ20年ほどを振り返るだけでも、島の中の光景は、大きく変化してきました。空港の大型化に伴う移転、市街地の大幅な改変、主要道路の延長や改修など、都会と何ら変わらない利便性が確保されたことと同時に、野生動物たちの目線から見ると、残念なことですが、明らかに住みにくい島になってきています。

その中でも、長らく保全業務を務めてきた、絶滅危惧ⅠA類であるカンムリワシは、快適な生息地が圧迫され、餌場となる田んぼが減ることにより、成鳥は過密状態で生活し、幼鳥・若鳥たちは新しい生活の場を確保できず彷徨っています。それに伴い、交通事故や衰弱救護に関しても、年々重い事例が増えてきております。そのような危機的な状況を踏まえて、受け身的な業務である『傷病動物の救護』の立場から、積極的に、救護原因に介入し、ヒトの手でできることを考え実行していく、島全体の保全を進める立場に、自分自身を移行しているところです。

今回、バンナ公園を管理されている、NPO法人ECCOM八重山の皆さんから、お声がけいただき、カンムリワシの主要生息地でもあるバンナ公園から、島の生物たちの現状をお伝えすることは、自らが目指していることと、正に一致するため、大変ありがたい機会であると考え、今後運営に関わらせていただくこととなりました。当然ながら、専門は野生動物保全になりますので、獣医師という専門家の立場から、島全体の良いベンチマークとなる自然公園づくりに、協力させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

最後になりますが、今後カンムリワシに関するお話会などのイベントを、公園内で開催させていただきたいと思っています。情報は、随時バンナ公園のSNS等に挙げていきますので、地元の方はもちろん、観光で来られた方も、是非ご参加ください。カンムリワシの、とても不器用で不思議な生態を、皆様に知っていただき、愛ある保全にご参加いただきたいと願っております。

2026年11月13日
獣医師　土城　勝彦